

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400148		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム市原五井西		
所在地	千葉県市原市五井西6-2-1		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成28年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人おひとりの要望や意思を尊重して、各々のペースで生活できる環境を作るようにしています。日頃から個々の利用者様との関わりや個別の外出、それぞれの心身状況に合わせたケアを目標にしています。認知症を患っていても、私達と同じように、その日の気分や状態で出かけたり、買い物を楽しんだり、職員側で決めたような日課を押し付けるのではなく、普通の生活を当たり前に行える支援をしています。また、職員が一生懸命で暖かい雰囲気があり、外部の方も入りやすいというご意見も多く頂戴しています。今後も、その様なお言葉を沢山いただけますよう、スタッフ一丸となって頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地の中にある広い敷地にベランダから出られる芝の庭と畑もあるゆったりと過ごせる環境のホームである。地域密着型の意義を踏まえ運営推進会議を機能させ自治会や地域包括と連携して、地域体操教室をホームで実施する等地域との交流に積極的に取り組んでいる。法人の理念を基に「個々の利用者の意思を尊重して、日々、心穏やかに生活出来るよう、暖かい丁寧なケアを提供する」とのホーム独自の理念を創り、利用者一人ひとりがその人らしく普通の生活を当たり前に出来るよう個別自立支援をチームワーク良く実施することにより理念の実践に取り組んでいる。法人他ホームと合同の運動会やホームでの屋台ラーメンなどの食行事や毎月の外出・外食行事のほか買い物などの個別の外出を支援するなど積極的に外出支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は、申し送りや会議時に必ず唱和し共有に努めています。新人職員には、入社オリエンテーションに組み込み、説明しています。	申し送り時や会議時に法人の理念とホームの理念を唱和し共有するようにしている。また、ケア日報ファイルにホームの理念を貼付し常に目にするよう工夫している。個々の利用者の意思の尊重、日々心穏やかに生活出来る事の意味を理解し、日々個別ケアの実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に、挨拶を交わす。ホームの駐車場で行った、フリーマーケット・敬老会・夏祭りには数名参加下さった。自治会に加入しているため、地域の行事案内もあり夏祭りや敬老会には参加しました。	自治会から色々な地域行事の案内を頂き、餅つき大会、町会一斉掃除、納涼祭や映画鑑賞、カラオケ教室に参加している。フリーマーケット、敬老会や夏祭りなどホームの行事に地域の方々にも参加頂いている。日頃の散歩時の交流の他、健康体操教室を地域包括と連携してホームで開催し地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々に避難訓練などの案内や行事の案内を持参し理解を深めて頂こうとはしたが、現状では活かせていない。今年より、地域包括の職員と連携し、健康体操教室を開催し、地域住民の方にも参加いただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子や行事など活動報告をさせていただき、ご家族様からも意見を頂戴しレクリエーションに取り入れるようにしています。また、自治会長さんの経験談などからも、介護の大変さや他の施設の状況も意見交換されている。	高齢者支援課や地域包括職員、町会長、民生委員や家族の参加を得て2ヶ月に一度定期的に開催している。運営状況、職員配置やホーム内研修、活動報告や外部評価などホームの取組みを報告している。出席者と活発な意見交換が行われ、サービスに活かす会議となっていることが議事録から読み取れる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしている。参加いただけない時は議事録で報告しています。身体拘束や虐待の研修報告を行っています。事故報告の際には、担当者からの助言も頂いています。	高齢者支援課には運営推進会議議事録でホームの実情や取組みを報告している。担当者との連携は取れており、的確な助言なども頂ける関係である。地域包括支援センター担当者との協力関係も築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での研修を行い、理解していただけるようにしています。	高齢者虐待防止と身体拘束拘束排除の研修を実施し職員の理解向上に繋げていることが研修議事録や研修報告書から読み取れる。また、今後年3回研修を行うとともに、2ヶ月に一度虐待・不適切ケアチェックシートで確認する等徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待の研修を年3回行うことにしている。2ヶ月に1回は虐待・不適切なケアのチェックシートを用いて確認しています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス、ご利用者の権利や尊厳についての研修を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせを行い、一項目ずつ内容の確認をしています。疑問点の有無を確認し、質問の際には随時お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、必ずご家族様にも意見を出して頂くようにしています。各職員にも伝達し、日常のケアに取り入れるようにしたり、ケアプランに落とし込むように心掛けています。	愛の家市原五井西通信で毎月の様子を家族に知って頂くようにしている。運営推進会議では全ての家族に意見を言うていただくよう配慮している。法人で毎年満足度調査を実施している。学校の職場体験の受け入れや保育園との交流の提案や入浴表健康管理表の送付等の要望を反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で、提案をしていたくように働きかけしています。月の行事担当や居室担当を設け、各々の企画や提案がスムーズに開催できるようにしています。年1回、本社より職員アンケートを実施して、改善点については管理者に指導や助言があります。	ユニット会議や全体会議で運営に関する意見や要望・提案を言い易い雰囲気作りをしており、夜勤帯の時間変更や勤務帯による業務内容の提案等を運営に反映させている。また、月の行事担当や外出行事担当を設け職員の企画や提案がスムーズに実行できるようにしている。また、毎年職員アンケートを実施し提案や意見を表す機会としている。毎月計画的にホーム内研修を実施し研修報告書、振り返りシートで上司からのフィードバックもし、また、外部研修や資格取得研修受講を進める等職員の個別育成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、個人の思いや希望を聞き取るようにして、助言などを行っています。状況により、勤務体系を考慮したり、社員への昇格やリーダーへの昇格も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トライアル企画を活用し介護職員初任者研修を受講して頂いたり、会社推薦の外部研修への参加を促しています。ケアの中で困ることなどは、適宜相談するようにはしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問し意見交換に努めています。また、行事への参加を勧めグループホームの介護を理解して頂くようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先での状況確認の連絡をさせて頂いたり、面会に行かせていただいています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話やケアの中からも意向や要望を把握するようにしています。また、表現が難しい方からは、表情や様子から把握できるよう職員からの情報を含め検討するようにしています。	職員は共に暮らす中で、ケアや会話を通じて入居者の思いや意向を把握するようにしている。一つの発言の背景まで汲み取り、その真意を掴めるよう努めている。気付いた事柄を職員が「個人ファイル」や「ケア日報」に記録し共有して、全体でカンファレンスを行いケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に聞き取るようにしている。サービス利用のあった方は、ケアマネから支援経過を聞き取り情報収集しています。また、家族の面会時に確認させていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、毎日個人ファイルに記録し観察しています。変化時は、朝夕の申し送りにて伝達し把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を活用し、他職員の意見を聞くようにしている。家族には、要望や意向を伺いながら、ホームで把握できたご本人の思いや状況を伝え検討、策定するようにしています。日常の業務の中でも、各スタッフの感じたことなど意見交換している。	ユニット会議で短期目標の実施状況や達成度について、居室担当者を中心に意見交換を行いモニタリングを実施している。3ヶ月ごとに計画作成担当者がサービス計画実施状況の総括を行い、纏めのモニタリングを行っている。サービス担当者会議の前に家族との話し合いを持ち、往診時に医師から意見を聞き、また看護師からも意見を聞いてケアプランに反映させている。	ケアプランを職員全員が共有し、参画意識を高めるために、第2表「短期目標・サービス内容」を現場で職員が常に使っている「健康管理表」の中に挟んで、いつでも見られるよう工夫されるよう希望したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人ファイルへ毎日記録し情報の共有に努めています。職員同士で試みている事については、申し送りノートを利用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の、ご本人やご家族様の状態や状況に合わせ、臨機応変に対応するように心掛けています。また、状態により訪問リハビリの提案や介入も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際に、ボランティアによる太鼓やダンスの披露を行っていただいた。健康体操普及員による体操教室の開催などで、入居者様と地域の方とが一緒に体操を行い交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、これまでのかかりつけ医を継続するか往診に変更するかは選べるように説明しています。かかりつけ医を継続される場合には、定期受診は家族にお願いしていますが、主治医との相談が必要な場合は同行させていただき適切な処置が受けられるよう対応しています。緊急時や家族が不可能な場合には、職員が行う事もあります。	今迄からのかかりつけ医には今迄通り家族付き添いでの受診を基本としているが、精神科等の特殊科受診に際しては職員同行で支援する事もある。往診を月2回受けており、往診に先立って状態等を「往診ファイル」に記載しFAXで伝えている。受診時には職員が同席し処置内容や指示事項を「往診・訪看記録」に記載し、「ケア日報」や「個人ファイル」へ転記し職員間の受診情報共有を図っている。状態の変化や変薬の際には適時家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡表を作成し、変化や見て欲しいことについてを事前に連絡しています。こちらの質問に対して所見を記入していただき連携を図っています。必要時には、訪問看護師から直接医師への連絡も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻回に面会に行き、医師からの病状説明に立ち会わせていただく。担当看護師からも、入院時の様子を確認させていただくようにしている。グループホームで生活できる状態を説明し、主治医が退院の判断をしやすくなるようにしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では、対象者がいないため契約時の説明しかしていませんが、将来的に予想される状況については、主治医と相談し家族に説明をしていただいている。	入居契約時に「重症化した場合における対応（看取り介護を含む）に係る説明に関する同意書」「看取り介護に係る指針」で説明し同意を得ている。将来的に予想される状況を考え、往診医と連携できる訪問看護師の配置や看取りに関する職員配置や職員研修の体制作りを計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの設置と全職員への周知を図っている。普通救命講習を受講して頂くよう促しはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や避難訓練を開催し避難場所などの確認は行っている。近隣住民の方には、中々参加はしていただけないが、今後自治会の回覧板などに入れて参加を募っていかようと思います。	消防指導による避難誘導訓練を含め、年2回実施している。昨年度課題としていた夜間想定での避難誘導訓練を実施し、多くの反省点と課題を見つけている。緊急連絡網は良く整備されており、防災研修も定期的に実施しており防災への関心も高い。また災害時に備えての食料・水の備蓄もできている。	夜間、職員の少なくなる時間を想定した夜間想定での避難訓練を頻回に行うことによって、夜勤する職員の避難誘導の習熟度を上げられるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況や状態に応じた声掛けをしています。排泄や入浴などの支援の際には、プライバシーに留意したケアをしています。	入居者嫌がる事・傷つくような事を絶対に言わないこと、また言葉遣いも丁寧過ぎず、慣れ慣れし過ぎない話し方を職員同士心掛けています。排泄や失禁時・入浴の際にはプライバシーの確保に気を付けています。新人職員には接遇研修やプライバシー研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や外食先を選んで頂き実施しています。また、買い物に行き、好きな物を選別して購入する機会を設けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、個々の生活リズムや意思を尊重し、入居者様の流れに業務を合わせていくように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洋服を選んでいただけるよう支援しています。毎月の理髪や染髪なども希望に沿って予約をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付を行っていただく方や野菜洗い、味付けの手伝いなど、盛付などを行っていただいています。また、おやつ作りの際にはフルーツのカットやケーキの下準備などを行っていただきます。男性は自分の分だけでなく、同席の方の分も下膳して下さる方もいます。	野菜洗いや味付け・下げ膳・食器拭きなど入居者夫々の能力にあったお手伝いをする事でやり甲斐を感じて貰えるようにしている。入居者同士の相性や摂食状況・介助の要否によってテーブルを分けている。食前には必ず口腔嚥下体操を行い「頂きまーす」の声で一斉に食事が始まる。敬老会やクリスマス・誕生会などの特別食の他、お鮎バイキングや会席料理・手作り弁当・和食レストラン等、ほぼ毎月職員が企画・実施し食を楽しめる支援に余念がない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の確認に努め、不足しがちな方は家族と相談し好みの物や高カロリーゼリー、医師の処方による高カロリー飲料などで低栄養にならないよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事ごとに歯磨きを行っていただいています。自身で仕切れない方は状態に応じた介助を行っています。就寝時は義歯洗浄剤での手入れや、歯科往診による定期的な歯科衛生も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた対応で支援しています。尿・便意のあいまいな方でも、時間を見計らいトイレへの声掛けや誘導を行っています。	便座には背凭れと手すりを設置している。夫々の排泄パターンを把握し、時間毎に声掛けをする、そしてトイレでの排泄を行う、その為に職員は二人介助でもトイレへ行く事を、自立支援の基本としている。また排泄の自立支援の一環として紙パン→布パンにすることで本人の自立意識を高める支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の健康管理表で管理し、便秘傾向の方は水分量や運動などに注意しています。状況により、往診医との下剤の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況に合わせて入浴を勧めています。自ら希望される方は、希望時に入浴していただいています。	基本的に週2回の入浴としているが、希望に応じて随時対応している。また夕刻に入浴を楽しむ利用者もいる。身体的特性に合わせどの方向からも入浴可能な「可動式浴槽」を設えている。入浴拒否には、職員が交代したり職員と一緒に銭湯へ行ってコミュニケーションを図ったり、声掛けのタイミングや声掛け方法など色々ないざない方で成功している。拒否者に無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力、基礎疾患との兼ね合いを考慮し休息の時間をとっていただいています。居室の温度調整や照明、パジャマへの更衣などをしていただく事で安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどの薬を何錠服用しているか、薬の効能や目的などを薬剤情報で確認するよう周知しています。内服薬変化時は、理由と目的を明確に伝え状態の変化の有無などを記録し申し送るよう声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の好きな方には、衣類のほつれや雑巾縫いを行っていただいたり、畑仕事の好きな方には野菜作りや草取りなどを一緒に行っています。男性で働くことが好きな方は、掃除機やモップでの清掃を行っていただいたり、ごみ捨てなどの手伝いをお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など近場へは希望時にすぐ対応するようにしています。海釣り公園やバードウォッチングなどの少人数での外出も行っています。誕生日など特別な日の夕食やドライブは家族と協力し個別の対応もしています。	天気の良い日は職員が声掛けをして近隣の公園へ散歩に出かけたり近くのスーパーへ買い物に行っている。車椅子の入居者も職員の支援で外出を行っている。日常的な外出の支援以外に、多くの外出行事の企画を立て実施している。例えばカラオケ屋・バードウォッチング・運動会・敬老会・誕生会（スター・バックスでお茶・バラを観賞しながらティータイム）・東京ドイツ村・初詣・新年会・鬼退治等等、枚挙に暇がない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状況によって、買物先での支払いが安全に済ませられるよう見守っています。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に頼まれた手紙を家族に郵送したり、家族からの手紙をお渡ししています。電話についても、事前にご家族に了承を得てかけて頂いたり、兄弟からの電話をつなぐなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔や、湿度・温度には注意するよう職員へ声掛けをしています。季節に合わせた掲示物や装飾物で季節感を味わっていただけるようにしています。家具の配置は、皆が共有して使いやすいように適宜変更しています。	共有空間のリビングルームは広めでしかも掃き出し窓のため明るい。温度・湿度にも配慮されている。廊下左右には手すりが施されており、更に廊下の床面に「トイレ」の文字や「〇〇さん」（の部屋）の文字を張り付けたり、浴室前には昔懐かしい温泉マークの暖簾を付けたりと入居者が戸惑わない創意工夫がみられる。壁にはイベント時の写真や書き初め・張り絵等の作品が所狭しと貼付してある。写経に専念する入居者もいる。1・2階共に広めのバルコニーがあって日光浴やお茶の場所として有用性が高い。家庭菜園ではトマトやシソ等の収穫を楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で談話や食事、レクを楽しめる席になるよう配慮しています。ソファで一人でテレビをご覧になる方や、昼寝をされる方などもおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持ってきていただくよう声掛けはしています。状態によって、家具の配置なども変更し、居心地や安全への配慮をしています。	電灯・クローゼット・エアコンをホームで備え付け、あとのタンスやベッド・布団・カーテン・机・椅子・テレビ・カセット・時計・ぬいぐるみ、更に写真や絵など持ち込まれ、自分自身の部屋として落ち着けるような配置をしている。居室入り口にはイベント時のスナップ写真が掲げてある。一人になりたい時や裁縫を静かに楽しみたい利用者は昼間も居室にいてもある。季節柄加湿器や濡れタオルを置いている。換気や掃除は自分で出来る人は自分でやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し歩かれる方は、手すりを使用しやすいよう歩く位置を矢印で示しています。自室を覚え、自由に出入りできるよう名前を付け認識を促しています。トイレや浴室は昔からあるマークで示しわかりやすいようにしています。		